

理研会報

千教研

理研究発表大会を終えて

印教研理研究部長 牧野 隆

印旛の理研究部が総力を結集して取り組んだ第三回千葉県教育研究会理科教育部会研究発表大会(印旛大会)が、好天に恵まれた去る十月二十日、県下各地から四〇〇名を越す会員の参加を得て盛会の内に多大な成果を納め終了することができました。

会場校佐倉小・中学校においては、これから理科教育の在り方について方向づけを示唆する授業展開及び研究発表がなされ、子供たちの生き生きとした学習活動が展開されました。午後の研究発表においては、県下各地から日頃の研究実践の累積に基づく数多くの実践事例が提案され、充実した研究協議がなされました。

新しい学力観に貫かれた学習指導要領が小・中とも実施の運びとなり、学校週五日制が導入されました。各学校とも多くの課題を抱える中、新しい理科教育の在り方を求めて努力を重ねる同志諸先生方が大勢おられるることは誠に心強

行
印教研理研究部事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948-1

であります。

本大会は、私ども印旛支部とりましては十六年ぶりの大事業となり、組織の全勢力を結集して成功を期しました。特に会場校佐倉小・中学校の先生方は、授業公開や研究発表などを通してすばらしい成果を県下に披露していただきました。また、印旛地区教育研究会ならびに佐倉市教育委員会には、本大会の趣旨・目的をご理解いただき、絶大なるご後援をいただきました。

大会の運営に直接当たりました理科教育部役員ならびに協力員の方々には、大変お骨折りをおかけしました。本大会の運営に様々な角度からご支援ご協力をいただきました関係各位に、この紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

記念すべき第三回千葉県理科教育研究発表が印旛で開催されたことを契機に、印旛の理科教育が更なる発展を遂げることを確信しつつ本誌をお届けし、報告と御礼に換えさせていただきます。



会場校長あいさつ

佐倉小学校

校長 藤江 德也



佐倉中学校

校長 山本 巍



終了できましたことはご同慶に絶えません。

中学校部門と全体会場を担当しました本校にとりましては、何よりも印教研理科教育部からこうした機会と場を本校に与えて下さったことに感謝しております。初めの頃を思い起こしますと、研究内容や授業公開、どれ一つとりましてもお引き受けできる自信は、正直なところ、そのかけらすらありませんでした。しかし、本校理科教育部の職員が、これに取り組もうと決意してくれたこと、そして印教研理科教育部が全面的に協力、支援して下さるとの意気込みに支えられたこと、これらの二つが会場校受けの大きな力となつて、

本校は平成四年度より佐倉市教育委員会から「社会科・理科・生活科」の研究指定をいただき、研修を進めておりました。ちょうどその折に千教研理科教育部会の公開研究会場としてのお話があり、この機会にさらに研修を積み重ね、多くの先生方にご指導を仰ぐことは、一人ひとりの教師にとってこの上ないチャンスと考えた次第です。

本校として取り組んで参った提案をさせていただきました。まだ拙いものであります。今後なお一層努力を積み重ね、未だに生きる児童の育成に努めたいと考えております。今後とも先生方のご支援ご指導をお願いして御礼の言葉とさせていただきます。

おかげ様で昨年十月二十日の公開研究会では、生活科四学級、理科八学級、特殊学級一学級の授業展開を、また本校の研究発表をさせていただき、新しい学力観に基づき本校として取り組んで参った提案をさせていただきました。また拙いものであります。今後なお一層努力を積み重ね、未だに生きる児童の育成に努めたいと考えております。今後とも先生方のご支援ご指導をお願いして御礼の言葉とさせていただきます。

千教研理科教育部会の研究発表大会は、県部会の年間ににおける事業で最大のものであります。この大会が、十六年ぶりにここ印旛地区に回って参りましたが、印教研理科教員皆様の献身的なご尽力によって、大きな成功を収めて

思えば、その後は実行委員会、度重なる事務局会議、直接本校の研究や公開授業づくりに指導・助言をいたいた研究協力員の方、そして数多くの運営協力委員の方、生方、大変お世話になりました。いずれの機会も、勤務時間外の仕事となり、まさにボランティア精神に支えられた取り組みでした。私たち本校職員はこうした姿に感服し、会場校としての責任を改めて自覚させられ、同時に大きな励みともなつて仕事ができました。ご期待に十分お応えできずにつれて、わったかとは思いますがお許し下さい。印教研理科教育部の力に感謝し、心から御礼申し上げます。

教育研究発表大会

大 会)

重 視 し た 理 科 教 育

研究発表 佐倉小学校

研究主題

豊かな心を育成するための学習指導はどうあるべきか

理科・生活科を通して

研究概要

一、生活科に関する

① 生活科研究主題

身近な社会な自然と自分との関わりに気づき、自ら学ぶ意欲を育てる生活科学習はどうあるべきか。

② 研究仮説と取り組み

「児童の興味や関心を生かした活動内容を工夫し、できた喜びや感動を味わせていくよ。」

△仮説1
△仮説2
△実験調査を実施し、活動の状況や「やってみたい」と思っていることを把握する。
△実態をもとに活動内容を考える。

△児童にとって身近であること
△これまでの経験が少ないもの

- ・技能として身に付けさせたいもの
- ・個々の児童の努力によって達成可能なもの



二、理科に関して

① 理科研究主題

自然事象を見つめる目を育てる理科学習はどうあるべきか

② 研究仮説と取り組み

仮説1

「児童自ら問題を見出し、意欲的に追求していけるような場を設定していけば、科学的な見方・考え方方が育ち、自然事象を見つめる目が育つだろう。」

△仮説1に対する取り組み

○導入段階での工夫（意外な事象・矛盾する事実・隠された法則性を提示）

△活動の場・時間の確保

○問題・予想・方法別小集団による学習△一斉指導からの脱却

△仮説2

「直接経験を重視し、豊かに表現していく活動を大切にしていけば、自然事象を見つめる目が育つだろう。」

△仮説2に対する取り組み△グループ活動や発表会を通してお互いを認め合う場を設定する。

△満足感や成就感が得られるよう

○自分なりに表現するノート指導に重点を置く。

○自然物に自ら働きかけていく活動を十分に取り入れていく。
○自分で確かめていかなければならぬという必要性に迫らせ

る工夫をしていく。
△成果として
○理科学習や自然と触れ合う活動に対する児童の興味・関心が旺盛になった。
○児童の学習や活動が、「主体的」になりつつある。

△課題として
○今後、それぞれの学年に応じた個を生かしていく学習の場をさらに工夫・充実させ、児童の自己実現の場を確保していく必要がある。

○教師に指示されなくても、子どもたちが自ら判断して実験準備ができるようになってきたこと。
○理科好きな児童がふえたこと。
特に今日の授業では、主に女子の活躍が目立ったことも大きな成果といえる。

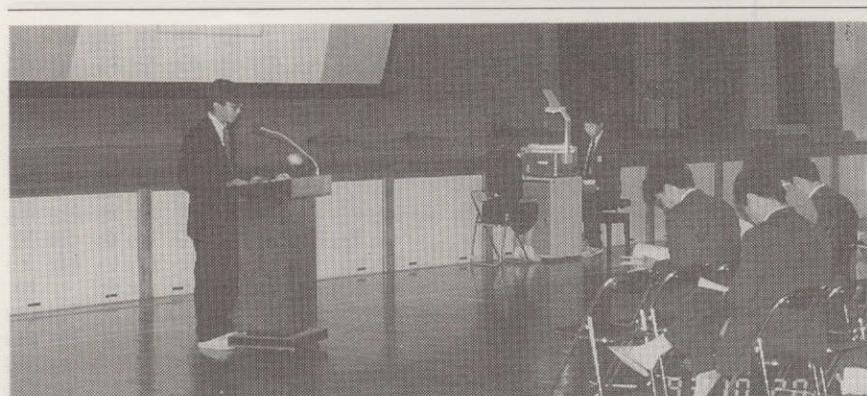
○藤の木学級の十二人の児童の顔が満足げであったこと。障害を持った児童もりりぱにできていて成就感を持つていきいきとした目をしていた。これは、個に徹した授業の積み重ねがなされた成果であるといえよう。

本校も個に応じた指導を心がけているが、本日の授業にはまさによくこれが実現されていた。さらに、今後の理科・生活科指導でも本日のような個に徹した指導が研究課題として残るだろう。

△指導助言

本校はこれまで理科の研究をしたことなく、昨年度より理科・生活科に取り組んできている。そこに、郡の理科学習部が入って約一年間先生方と共に研修を積んできたところ、今日の授業には一年の成果がよく表れていた。

具体的には、



第30回 千葉県理科 (印旛) 自然とのふれあいを



充・深化学習を取り入れた「多様な学習」を工夫改善することで学ぶ意欲を喚起しようとした。第二として、自己評価を評価活動の中に組み入れ、個性の理解を深めたり、自己の学習改善についての情報を得ることができるようとした。

現在、学校教育においては画一的知識注入型の授業からの脱却と個に応じた指導を通して、基礎・基本の徹底と、そうして得た知識・技能をもとに新たな課題に主体的に取り組んでいく態度と能力の育成がより重要になってきている。そこで授業の中でも、思考力、判断力、表現力などの能力の育成と主体的な学習態度の育成が重要と考え研究主題を設定した。このような態度と能力の最も中心的因素は学ぶ意欲であると考え、それを喚起していくための指導のあり方はどうあるべきか追求してきた。

〔目的〕

研究三題

研究発表
中学校

に与える効果について明らかにすることを目的とした。

研究仮説

(1) 学習過程に多様な学習活動を導入し、個に応じた指導・個性

を生かした学習を行うことによって、基礎的・基本的概念の定着・深化・拡大がはかられるとともに、学習意欲や学習に対する興味・関心が高まり、主体的な学習態度・能力が育成されるであろう。

(2) 学習の区切りごとにその成果の確認として自己評価をさせることによって、達成感・成就感を味わわせれば、学習意欲が持

・強化され主体的な学習態度
・能力が育成されるであろう。

研究内容

(1) 学習過程の再構成

ト→全体学習→チェックテスト
↓多様な学習→全体学習Ⅱ→ポートフォリオテストという一連の流れに再構成した。ここで多様な学習



多様な学習を通して、生徒は課題に対する成就感とともに、それが自信となって更に困難な課題に意欲的に取り組もうとする態度が形成されてきたと考えられる。また、自己評価は、自己の理解を深めたり、学習改善のための情報を得ることができ、学ぶ意欲を喚起

△成果と課題△

な結果を得られた特に感覚活動の両分野で多様な学習による成果と思われる変化が認められた。

(3) 観点別評価

(2) 学習目標の分析

学習目標分析により、学習目標相互間の軽重が構造的に把握でき、教材の精選、重点化、教科カリキュラムの構成が容易になつた。また、学習目標に照らして授業設計の中に学習過程における評価を仕組むことが容易になり、指導の軌道修正や学習の指向性を指し示すことができた。

^指導助言

○本日の研究発表には次の特徴がある。

生徒個々の学習の進展状況を確認した。達成目標の評価は、学習のねらいに沿った問題を行ない、その際、学級全体や生徒個々のより詳細なデータ把握のためにS-I-P表を活用した。

調査表を用いて、全学年で理科学習に対する意識調査を多様な学習の前後で行つた。各質問項目を論理、感覚、活動、内容の4分野で分析した。一回目に比べて二回目の調査の方が良好

級においても、生徒が生き生きとした姿がみられ、これまでの教師の教える授業から、生徒自身がつくり上げてゆく学ぶ授業がみられた。これは日頃の意欲的な研究実践の積み重ねの成果であり、生徒の教材を媒介とした“織り成すドラマ”であり、研究主題そのものである。

○ 学習指導の改善に積極的にとりくみ、様々な困難の中でとりくまれた“研究テーマ”は、今後の学習指導の改善すべき点を洗い出し、学習指導要領の先導的な役割を果してくれた。

級においても、生徒が生き生きとした姿がみられ、これまでの教師の教える授業から、生徒自身がつくり上げてゆく学ぶ授業がみられた。これは日頃の意欲的な研究実践の積み重ねの成果であり、生徒の教材を媒介とした「織り成すドラマ」であり、研究主題そのものである。

○ 学習指導の改善に積極的にとりくみ、様々な困難の中でとりくまれた「研究テーマ」は、今後の学習指導の改善すべき点を洗い出し、学習指導要領の先導的な役割を果してくれた。

